

## てがたんレポート Vol. 4 No. 10 (2007年10月：通巻43号)

- ・ 観察コースと内容：鳥の博物館→3・5・15号線沿い歩道→フジ棚→滝下広場→遊歩道→芝生広場（まとめとお知らせ後解散）
- ・ 観察日時／天気：2007年10月13日（土）10:00～12:20／晴れ
- ・ 参加人数：19人（うち中学生以下5人）
- ・ 観察案内&記録ボランティア・スタッフ:12人（敬称略・五十音順）：石原直子、伊東茂子、小泉伸夫、染谷迪夫、中井清子、弘寛さと子、古川克彌、松原昭福、松村定雄、水上香苗、保田行弘、湯瀬一栄
- ・ 鳥博職員：時田賢一、岡廣志

今回のテーマ：秋の花をさがそう  
・案内人：弘寛さと子さん

### 観察記録—10月に観察した生き物リスト—

#### ★観察した生き物（7日の下見の観察も含む）

【鳥類】 カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、キジ、オオバン、ユリカモメ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、エナガ（7日）、シジュウカラ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

（外来種や家禽）コブハクチョウ、バリケン、ガチョウ、アヒル、ドバト

【は虫類】 アオダイショウ幼蛇

【両生類】 ニホンアマガエル、トウキョウダルマガエル、ウシガエル

【昆虫】

- ・ トンボの仲間：ウスバキトンボ、ノシメトンボ、アキアカネ
- ・ バッタの仲間：エンマコオロギ、ツツレサセコオロギ
- ・ チョウの仲間：キチョウ、モンシロチョウ、モンキチョウ、キタテハ、ヒメアカタテハ、ツマグロヒョウモン、ウラギンシジミ、ヤマトシジミ、ウラナミシジミ、ルリシジミ
- ・ カメムシの仲間：ツクツクボウシ

【植物】

- ・ 花：ツルドクダミ、サデクサ、ミソソバ、イヌタデ、ポントクタデ、ヤナギタデ、オオイヌタデ、アメリカセンダングサ、シロノセンダングサ、コセンダングサ、タカサブロウ、アメリカタカサブロウ、コナギ、キクモ、イボクサ、アキノノゲシ、ホソアオゲイトウ、アメリカアゼナ、トキワハゼ、ヤブガラシ、カントウヨメナ、アメリカイヌホオズキ、オモダカ、セイタカアワダチソウ、イヌガラシ、ヒメジソ、アカバナ
- ・ 果実：イシミカワ、ヘクソカズラ、スダジイ、コブシ、ムクノキ、クスノキ、ミズキ、エゴノキ、トキワサンザシ（植栽）、スイカズラ、モチ



# 10月の観察アルバム

## タデの仲間を観察しました



美しい青紫色のイシミカワの果実



群生する花はイタドリに似ています。葉の形がドクダミに似ているツル性の植物であることから、名前は、ツルドクダミ。



タデオナルという辛みのある植物製油成分を含むヤナギタデ。薬酔に使われたり、双葉は刺身のツマとして目にしています。



しばしば葉に八の字の模様が入ります。

左のヤナギタデにそっくりですが、イヌタデ同様、辛み成分を含みぬためボントクタデ（凡鷹=おろかな）と名付けられました。



托葉の形に特徴があります。

ミソソバに似ていますが、茎を包み込む歯車のような形の托葉に特徴があります。



田んぼの水路脇など湿った所に群生するミソソバ。



辛み成分を含まないため、人の役に立たないという意味で、イヌタデと名前がつけました。

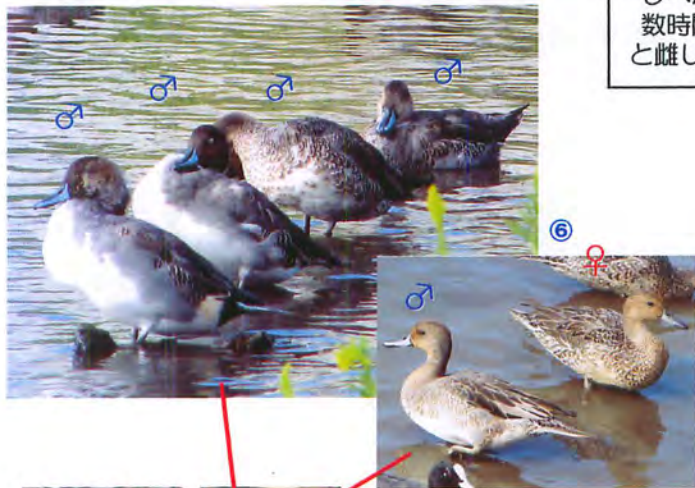


イヌタデを大型にしたオオイヌタデ。花序全体が白色のものや、桃色が混じるものがあります。



ヤブガラシを観察しながら市民スタッフの弘貴さんから”ヤブガラシの花の繁殖戦略”のお話を聞きました

## “エクリップス”のオナガガモを観察しながらカモの渡りや換羽についてお話を聞きました



「雄花→雌花」へ変化?! 朝、咲きたての花には雄しべがついていますが、数時間後、雄しべが散ると雌しべが顔を出します。



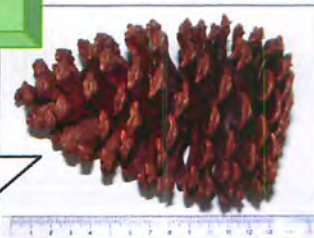
ヤブガラシの花は昆虫たちの食卓です。蜜を出す時間にも秘密があります。



東日本のヤブガラシはほとんど3倍体（5葉）で結実しません。希に果実が観察されることがあります（写真は岡野戸の谷津田で観察したもの）。

## 市民スタッフの保田さんが大王松の松ぼっくりをプレゼントしてくれました

ダイオウマツの巨大な松ぼっくり（15cmあります）。北米南東部原産の沼地性のマツの仲間、明治末期に日本に移入されました。



あと半月も経てば、きれいな繁殖羽のオスの姿が見られるようになりますはずです。



手賀沼 2005-11-2